

令和5年度 ゆずの樹はうす 事業報告書

1 総括

令和3年4月に共同生活援助事業所さかえホームとの併設型で短期入所事業を開設した。さかえホームの職員確保を優先させたことで、事業開始は令和4年6月となり、約2年が経過した。いまださかえホームの職員の人材不足は解消されておらず、この影響で短期入所事業については、支援体制が確保できる日程を調整しながら利用者の受け入れを行わざるを得ない状況となった。徐々に開所日は増えているものの、令和5年度は1か月あたり10日程度の開所に留まった。その一方で、緊急相談の利用者については、さかえホームの職員の兼務により2名の受け入れを行うことができた。地域全体で短期入所事業が不足していることもあり、緊急時の相談については次年度においても可能な限り受け入れを行っていききたい。また、体験を希望する利用者については、利用後間もない利用者も多く、利用時にまだ戸惑い等がみられるが、利用回数を重ねるごとに徐々に慣れてきている様子が伺える。緊急時の受入や体験の場としての役割を果たすためにも職員の増員が必要である。

2 事業概要

- 1) 施設名 ゆずの樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（グループホーム併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市栄町2-1-15
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 1名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 7) 事業指定年月日 令和3年4月1日
- 9) 職員（令和6年3月31日現在）
管理者 1名
サービス管理責任者 1名
世話人 8名
生活支援員 14名（併設しているさかえホームと兼任）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入浴
18時00分～	19時00分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 全体験利用者が1か月に1回以上利用できる体制を整える。

【成果と課題】

体験利用登録者9名のうち4名から月1回の利用希望があった。慢性的な人手不足により職員が配置できず、日程を組めなかった日が年間で5日間あり、全希望日数37日のうち32日受け入れを行った。この他不定期で利用希望があった5名は、希望があった延べ13日は全て受け入れることができた。4月に1名がグループホームへ入居したことから利用終了となり、3月末で体験利用登録者数は8名となった。

(2) 緊急時については、体験利用に優先して受け入れを行う。

【成果と課題】

緊急時の利用希望は2名で延べ24日を受け入れ、2名からの利用希望日は全て受け入れができた。緊急時の受け入れを行うにあたり、1日のみ体験利用者へキャンセルを依頼したが、事情の説明により理解を得られることができた。

(3) 利用者の支援内容を充実する

①全利用者のアセスメントシートを作成し、文書によって全職員に確実に利用者情報を伝達する。

【成果と課題】

利用開始前に、家族から書面にてアセスメント情報を得て、職員間で共有を図り、事故等なくスムーズに利用することができた。

②1度利用を行った全体験利用者の個別支援計画を作成し、個別支援計画に基づいた支援を行う。

③支援内容やその成果、利用者の状況や嗜好などを丁寧にケース記録等へ記載し職員間で共有すると共に必要に応じて家族への情報提供を行う。

【成果と課題】

令和5年度に利用した9名全員の個別支援計画が完成したのが年度末となった。個別支援計画作成の遅れにより、支援方針の職員間の共有、計画に基づいた支援の実施とその記録、評価の全てにおいて不十分となった。全般的に意識改革、スキルの向上が必要といえる。また、ケース記録においては、昨年度と比較して、利用者の一日の流れを記載するようになってきているが、行動の記録が多く、心情面も含めた利用者の様子、家族や関係機関との共有事項等については記録が不十分となった。

④日常の様子その他、本人や家族等から意見や感想を基に支援の評価を行う。

【成果と課題】

初回利用後は、可能な人からは感想や困ったこと等を聞いたうえで、利用継続の希望確認を行った。また、本人への聞き取りが難しい利用者については、家族に連絡を取り、利用時の様子を伝えるとともに帰宅後の様子を聞き取った。

⑤事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。
- ・利用者の行動特性を理解し、支援の統一を図ることにより未然に事故を防ぐ。

【成果と課題】

誤薬、離接等の事故は発生しなかった。

2) 人材育成

- (1) 常勤換算13.5名の支援体制の安定確保
生活支援員等約4名を新規に採用する。

【成果と課題】

グループホームの支援体制と併せ、年度当初12.5名でスタートし、年度途中に主たる職員1名を採用したが、生活支援員等が2名（常勤換算1.3）退職し、常勤換算は、12.2名で目標には達しなかった。

- (2) 職員間の連携・情報共有によるチーム支援の充実を図る

①情報共有

管理職や主たる職員からの申し送り及び周知事項の伝達の徹底、利用者予定表・ケース記録・業務日誌・引き継ぎノートへの記入の精度向上と確認の徹底により、利用者の支援状況等を職員間で共有する。

②業務標準化

職員への個別指導の強化、研修の実施等で全般的なスキルアップを図る。

【成果と課題】

利用者の予定や体調面の申し送り、事務連絡等の周知事項等は、引き継ぎノートを活用し、職員が出勤時に確認することとしているが、記載もれや職員によってはノートを確認しない、確認後のチェックをしないなど基本的な業務に課題が多い。管理者や主たる職員から口頭による申し送りにより、業務の引き継ぎは滞りなく行えているが、出勤していない職員にはその間の入居者の情報が共有されない場面もみられる。支援の継続性やチームによる支援という考えか不足し、その時々職員個々の考えや感覚での支援になりがちであった。支援方針の統一やケース記録の充実等にも課題があり、全般的に業務の標準化は不十分である。

3) 経営管理

- (1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

- (2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。

- ・目標利用率： 60%（平日70%、休日25%）

【令和5年度目標額】

・介護給付費収入	約220万
・都加算収入	約100万
	約320万

【成果と課題】

2) - (1) に記載の通り、支援体制が確保できず、利用率は目標を大幅に下回った。これに伴い、収入についても、目標より約202万円の収入減となった

《利用率》	令和5年度実績	令和4年度期実績	前年度との差
	22.1%	34.2%	△12.1%
(内訳) 平日	31.0%	31.1%	△0.1%

土日祝 4.6% 35.0% △30.4%

《給付費等収入》

	令和5年度実績	令和4年度期実績	前年度との差
介護給付費収入	約82万円	約93万円	約△11万円
都加算の収入	約31万円	約30万円	1万円
総額	約113万円	約123万円	約△10万円

年間目標の達成率 35.3%

8 夜間等緊急時の対応

夜間については、開所日数116日の内110日は、専任の職員を1名配置し、6日は、さかえホームとの兼任職員1名を配置した。緊急対応が必要な事案は発生しなかった。

9 実施状況

1) サービス実施日数 自：令和5年4月1日 至：令和6年3月31日
116日間(内、土・日・祝日開設5日間)

10 利用状況

1) 利用登録者数 11名

2) 実利用者数 11名

(1) 利用目的

①緊急利用 2名

②体験利用 9名

合計 11名

(2) 平日・土日祝日利用

①平日 10名

②土日祝日 1名

合計 11名

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

①緊急利用 38名

②体験利用 45名

合計 83名

(2) 平日・土日祝日利用

①平日 80名

②土日祝日 3名

合計 83名

11 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	8名	53名
・30歳以上40歳未満	1名	9名
・40歳以上50歳未満	0名	0名
・50歳以上	2名	21名
合計	11名	83名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・区分3	3名	13名
・区分4	3名	22名
・区分5	1名	12名
・区分6	4名	36名
合計	11名	83名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・男性	11名	83名
・女性	0名	0名
合計	11名	83名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・管内居住	6名	54名
・管外居住	5名	29名

1.2 環境の整備

共有スペース及び居室を定期的に清掃し施設内美化に努めた。

1.3 健康管理

基礎疾患のある利用者はなく、大きな健康問題は起きなかった。新型コロナウイルスの罹患者が、併設するさかえホームで出た際は、直近で利用があった利用者に連絡し、体調確認や利用の有無を確認した。

1.4 防災計画

さかえホームとともに災害時避難訓練を年2回実施した。